

【引受保険会社】

**active generation**  
アクティブジェネレーション

保証金額付特別勘定年金特約(終身型)付変額個人年金保険(06)



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

2020年度

# 特別勘定の現況

(世界分散型40AL(501)/世界分散型20AL(502))

決算のお知らせ

ご契約者の皆様へ

日ごろは格別のお引き立てを頂き、誠に有り難く御礼申し上げます。  
さて、弊社は去る3月31日に決算を迎えましたので、ここに特別勘定の運用状況をご報告申し上げます。  
今後とも何卒ご愛顧の程よろしくお願い申し上げます。

ホームページアドレス <https://www.axa.co.jp/>

お問い合わせ先 **0120-375-193**

<受付時間> 月～金 9:00～18:00

土 9:00～17:00

(日・祝日、年末年始の当社休業日を除く)

【利用する投資信託の委託会社】

**ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社**

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社は、ステート・ストリート・グループの資産運用部門であるステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ(SSGA)の東京拠点です。1998年10月1日に業務を開始、投資信託・投資顧問業務を幅広く展開しています。

ステート・ストリート・グループは1792年に米国ボストンで設立されたステート・ストリート銀行を中核としており、同行は世界最大級の預かり資産とネットワークを有するカस्टディ銀行として、卓越した財務内容と高い信用力を誇ります。SSGAは、最先端テクノロジーと高度な運用技術を駆使したクオンツ運用に定評があり、

特にインデックス運用では世界有数の資産運用会社として評価されています。

- ・当保険商品は特別勘定で運用を行います。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・当資料は、特別勘定の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- ・当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・商品内容の詳細については「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」等をあわせてご覧ください。
- ・当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

## 変額個人年金保険 (06) 特別勘定の現況 (2020年度)

- ・当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

### 運用環境

#### 【日本株式市場】

日本株式市場は上昇しました。年度末の東証株価指数 (TOPIX) は前年度末比 +39.27% の 1,954.00 ポイント (前年度末 1,403.04 ポイント) となりました。年度の前半は、新型コロナウイルス感染拡大に歯止めがかかり経済活動が正常化することへの期待感などを受けて上昇しました。年度の後半も、新型コロナウイルス向けワクチン実用化により経済活動が正常化することへの期待感などを背景に上昇しました。中でも、11月には米大統領選の影響による米国株高などを背景に上昇しました。年度末にかけては、米追加経済対策法案の成立などを受けて上昇し、高値圏で引けました。

#### 【外国株式市場】

米国株式市場は上昇しました。年度末の NYダウ工業株 30種は前年度末比 +50.48% の 32,981.55 ドル (前年度末 21,917.16 ドル) となりました。年度の前半は、新型コロナウイルス感染拡大に歯止めがかかり経済活動が正常化することへの期待感などを受けて上昇しました。年度の後半も、新型コロナウイルス向けワクチン実用化により経済活動が正常化することへの期待感などを背景に上昇しました。中でも、11月には米大統領選で民主党のバイデン前副大統領が勝利する見込みとなるも、同時にねじれ議会が発生するとの思惑が広がりバイデン前副大統領による増税案が回避されるとの見方などを受けて上昇しました。年度末にかけては、米追加経済対策法案が成立したことなどを背景に上昇し、高値圏で引けました。

欧州株式市場は、年度の前半は、新型コロナウイルス感染拡大に歯止めがかかり経済活動が正常化することへの期待感などを背景に上昇しました。年度の後半も、新型コロナウイルス向けワクチン実用化により経済活動が正常化することへの期待感などを背景に上昇しました。中でも、11月には米大統領選の影響による米国株高などを背景に上昇しました。年度末にかけては、米追加経済対策法案が成立したことなどを背景に上昇し、高値圏で引けました。市場別の年間の騰落率は、独 DAX 指数 +51.05%、仏 CAC40 指数 +38.01% となりました。

#### 【日本債券市場】

日本債券市場は、10年国債の金利が上昇 (価格は下落) し、年度末には 0.095% (前年度末 0.022%) となりました。年度の前半は、日銀が国債の購入に制限を設けないなどの金融政策の方針を決定したことを受けて金利は一時 -0.052% まで低下 (価格は上昇) しましたが、その後は低下幅を縮め、ほぼ横ばいで推移しました。年度の後半は、横ばいで推移した後、日銀が長期金利の上昇を容認するとの思惑が台頭したことや、米長期金利の上昇などを受けて金利は一時 0.181% まで上昇しましたが、日銀が長期金利の変動幅拡大を必要とは考えないとの見方を示したことを受けて上昇幅を縮めました。前年度末比では、金利は上昇しました。

#### 【外国債券市場】

米国債券市場は、10年国債の金利が上昇 (価格は下落) し、年度末には 1.740% (前年度末 0.670%) となりました。年度の前半は、金利は上昇基調で推移した後、米国における新型コロナウイルスの感染再拡大などを背景に一時的に 0.502% まで低下 (価格は上昇) しましたが、新型コロナウイルス感染拡大に歯止めがかかり経済活動が正常化することへの期待感などを背景に上昇に転じました。年度の後半は、新型コロナウイルス向けワクチン実用化により経済活動が正常化することへの期待感などを背景に金利は上昇しました。年度末にかけても、米追加経済対策法案の成立や、FRB (連邦準備制度理事会) が今年の経済成長率と物価見通しを引き上げたことを受けて金利は上昇して引けました。年度中に、FRB による FF (フェデラル・ファンド) 金利の誘導目標の変更はなく、年間を通して年 0.000~0.250% でした。

欧州債券市場は、独 10年国債の金利が上昇し、年度末には -0.292% (前年度末 -0.471%) となりました。年度の前半は、新型コロナウイルス感染拡大に歯止めがかかり経済活動が正常化することへの期待感などを受けて金利は一時上昇する場面もありましたが、欧州での新型コロナウイルス感染再拡大などを背景に低下しました。年度の後半は、新型コロナウイルス感染再拡大に伴う欧州主要国での行動制限措置強化などを受けて金利は低下し、11月には一時 -0.670% を付けました。しかしその後は、米長期金利の上昇や、米追加経済対策法案成立への期待感などを受けて金利は上昇して引けました。

#### 【外国為替市場】

米ドル/円相場は、円安米ドル高となり、年度末には 110.71 円 (前年度末 108.83 円) となりました。年度の前半は、新型コロナウイルスの感染拡大や米追加経済対策の不透明感などを背景に円高米ドル安基調で推移しました。年度の後半は、欧米での新型コロナウイルス感染者数増加や、新型コロナウイルス感染再拡大に伴う欧州主要国での行動制限措置の実施による景気悪化への懸念などを受けて円高米ドル安が進み、1月には 102.68 円を付けました。その後は、米追加経済対策法案の成立や世界的な経済正常化への期待感などによる米長期金利の上昇などを背景に急速に円安米ドル高が進みました。

ユーロ/円相場は、円安ユーロ高となり、年度末には 129.80 円 (前年度末 119.55 円) となりました。年度の前半は、新型コロナウイルス感染拡大に歯止めがかかり経済活動が正常化することへの期待感や ECB (欧州中央銀行) が追加金融緩和を決定したことなどを背景に円安ユーロ高が進みました。年度の後半も、円安ユーロ高基調で推移し、年度末にかけては、ECB 前総裁のドラギ氏がイタリア首相候補指名を受諾したことによるワクチン接種加速と財政健全化期待や、欧州の長期金利の上昇などを受けて円安ユーロ高が進みました。

## 変額個人年金保険 (06) 特別勘定の現況 (2020年度)

- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

### 特別勘定「世界分散型40AL(501)」の運用方針および運用状況 [2021年3月末日現在]

特別勘定名	特別勘定の運用方針
世界分散型40AL(501)	当特別勘定は、主として国内外の株式および債券を主要投資対象とする投資信託を運用対象としており、次年度も今年度と同様の運用方針で運用します。
利用する投資信託	利用する投資信託の運用方針
4資産バランス40VA <適格機関投資家限定>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 当ファンドは、日本株式インデックス・マザーファンド受益証券20%、日本債券インデックス・マザーファンド受益証券30%、外国株式インデックス・オープン・マザーファンド受益証券20%、外国債券インデックス・マザー・ファンド受益証券30%*を基本配分比率とし、中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。</li> <li>* 当ファンドは、外国債券インデックス・マザー・ファンド受益証券の組入れに伴う実質的な組入れ外貨建資産の50%部分について、原則として為替ヘッジを行います。</li> <li>● 各受益証券の時価変動などに伴う基本配分比率の変化に関しては、資産ごとに一定の変動幅を設け調整を行います。</li> <li>● 当ファンドの主なリスク ・価格変動リスク ・信用リスク ・カントリーリスク ・為替リスク</li> <li>● 受益証券の配分に代えて、トータル・リターン・スワップ取引を利用する場合があります。(詳しくは、P.5をご覧ください)</li> </ul>

#### ■特別勘定の運用コメント (2020年4月1日 - 2021年3月末日)

当期のユニットプライス騰落率等は下記をご参照願います。  
各組入れマザーファンドに関しては、目標とするベンチマークに対する連動性を高めるよう、インデックス構成銘柄の変更タイミングや資金流入のタイミングなどにおいて適宜リバランスを実施し、期を通じてトラッキングエラーを適性水準に抑制した安定的な運用を行いました。今期は、日本株式、外国株式、外国債券の各マザーファンドがプラス寄与、日本債券マザーファンド、為替ヘッジがマイナス寄与となっています。

#### ■特別勘定のユニットプライスの推移

※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



特別勘定のユニットプライス		騰落率(%)	
2021年3月末	117.92	1ヵ月	2.76
2020年12月末	114.28	3ヵ月	3.18
2020年9月末	110.03	6ヵ月	7.17
2020年6月末	107.68	1年	14.85
2020年3月末	102.67	3年	9.97
2019年12月末	111.02	設定来	17.92

- ・世界分散型40AL(501)の特別勘定のユニットプライスは、特別勘定の設定日(2007年2月20日)を100.00として計算しております。
- ・騰落率は、当月末における、上記各期間のユニットプライスの変動率を表しています。

#### ■特別勘定資産の内訳

項目	世界分散型40AL(501)	
	金額(千円)	比率(%)
その他有価証券	21,479,864	99.4
現預金・その他	135,798	0.6
合計	21,615,663	100.0

- ・特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。
- ・金額の単位未満は切捨てました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しております。

#### ■特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額(千円)
利息配当金収入	—
有価証券売却益	155,019
有価証券評価益	3,218,981
有価証券償還益	—
為替差益	—
その他収益	—
有価証券売却損	—
有価証券評価損	—
有価証券償還損	—
為替差損	—
その他費用及び損失	—
収支差計	3,374,001

## 変額個人年金保険 (06) 特別勘定の現況 (2020年度)

・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

### 特別勘定「世界分散型20AL(502)」の運用方針および運用状況 [2021年3月末日現在]

特別勘定名	特別勘定の運用方針
世界分散型20AL(502)	当特別勘定は、主として国内外の株式および債券を主要投資対象とする投資信託を運用対象としており、次年度も今年度と同様の運用方針で運用します。
利用する投資信託	利用する投資信託の運用方針
4資産バランス20VA <適格機関投資家限定>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 当ファンドは、 日本株式インデックス・マザーファンド受益証券10%、 日本債券インデックス・マザーファンド受益証券40%、 外国株式インデックス・オープン・マザーファンド受益証券10%、 外国債券インデックス・マザー・ファンド受益証券40%* を基本配分比率とし、中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。 * 当ファンドは、外国債券インデックス・マザー・ファンド受益証券の組入れに伴う 実質的な組入れ外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。</li> <li>● 各受益証券の時価変動などに伴う基本配分比率の変化に関しては、資産ごとに一定の変動幅を設け調整を行います。</li> <li>● 当ファンドの主なリスク ・価格変動リスク ・信用リスク ・カントリーリスク ・為替リスク</li> <li>● 受益証券の配分に代えて、トータル・リターン・スワップ取引を利用する場合があります。 (詳しくは、P.6をご覧ください)</li> </ul>

#### ■特別勘定の運用コメント (2020年4月1日 - 2021年3月末日)

当期のユニットプライス騰落率等は下記をご参照願います。  
各組入れマザーファンドに関しては、目標とするベンチマークに対する運動性を高めるよう、インデックス構成銘柄の変更タイミングや資金流入のタイミングなどにおいて適宜リバランスを実施し、期を通じてトラッキングエラーを適性水準に抑制した安定的な運用を行いました。今期は、日本株式、外国株式、外国債券の各マザーファンドがプラス寄与、日本債券マザーファンド、為替ヘッジがマイナス寄与となっています。

#### ■特別勘定のユニットプライスの推移

※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



特別勘定のユニットプライス	騰落率(%)		
2021年3月末	107.52	1ヵ月	1.21
2020年12月末	107.70	3ヵ月	△ 0.17
2020年9月末	106.12	6ヵ月	1.32
2020年6月末	105.09	1年	4.38
2020年3月末	103.00	3年	2.71
2019年12月末	106.12	設定来	7.52

・世界分散型20AL(502)の特別勘定のユニットプライスは、特別勘定の設定日(2007年2月20日)を100.00として計算しております。  
・騰落率は、当月末における、上記各期間のユニットプライスの変動率を表しています。

#### ■特別勘定資産の内訳

項目	世界分散型20AL(502)	
	金額(千円)	比率(%)
その他有価証券	2,815,668	98.7
現預金・その他	36,324	1.3
合計	2,851,992	100.0

・特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。  
・金額の単位未満は切捨てました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しております。

#### ■特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額(千円)
利息配当金収入	—
有価証券売却益	16,221
有価証券評価益	180,453
有価証券償還益	—
為替差益	—
その他収益	—
有価証券売却損	100
有価証券評価損	—
有価証券償還損	—
為替差損	—
その他費用及び損失	—
収支差計	196,574

# 変額個人年金保険(06) 特別勘定の現況 (2020年度)

- 投資信託の運用状況は、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

## 4資産バランス40VA<適格機関投資家限定>の運用状況

### 【運用方針】

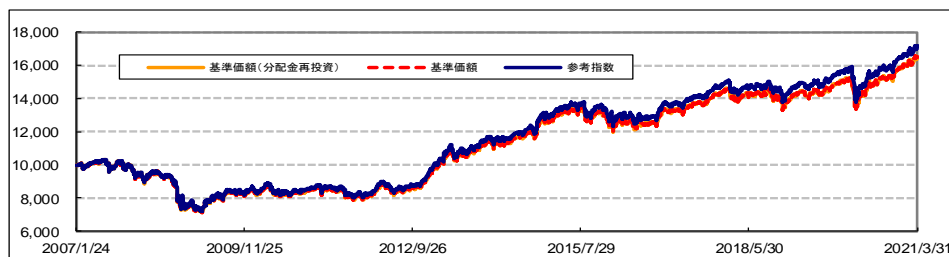
当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行い、実質的に国内外の株式および公社債等に投資を行います。当ファンドが主要投資対象とする各マザーファンドは、それぞれ以下のベンチマーク(運用成果を判断するうえで基準とする指数)と連動する投資成果を目標とする運用を行います。

マザーファンド受益証券の配分に代えて、各マザーファンドを基本配分比率で合成した指数(ただし外国債券の為替ヘッジを行う部分については円ヘッジベース)のリターンと短期金利レートの金利を一定の条件のもとに交換するトータル・リターン・スワップ取引を利用する場合があります。

### ■各マザーファンドとベンチマーク

利用する投資信託名	基本資産配分比率	マザーファンド受益証券	委託会社	ベンチマーク
4資産バランス40VA <適格機関投資家限定>	日本株式 20.0%	日本株式インデックス・マザーファンド受益証券	ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社	TOPIX(東証株価指数配当込み)
	日本債券 30.0%	日本債券インデックス・マザーファンド受益証券		NOMURA-BPI総合指数
	外国株式 20.0%	外国株式インデックス・オープン・マザーファンド受益証券		MSCIコクサイ・インデックス(円ベース)
	外国債券(ヘッジあり) 15.0%	外国債券インデックス・マザー・ファンド受益証券		FTSE世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース) *「4資産バランス40VA<適格機関投資家限定>」は、外国債券インデックス・マザー・ファンド受益証券の組入れに伴う実質的な組入外貨建資産の50%部分について、原則として為替ヘッジを行いますので、当該部分のベンチマークは「FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)」となります。
	外国債券(ヘッジなし) 15.0%			

### ■基準価額の推移



- ※ グラフは、4資産バランス40VA<適格機関投資家限定>の設定日(2007年1月24日)を10,000として指数化しています。
- ※ 基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬(純資産総額に対し、年率0.165%(税抜0.15%))控除後の値です。
- ※ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- ※ 参考指数は、TOPIX(東証株価指数配当込み)20%、NOMURA-BPI総合指数30%、MSCIコクサイ・インデックス(円ベース)20%、FTSE世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)15%、およびFTSE世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)15%で組み合わせた合成指数です。

### ■概況

	当月末	前月末	前月末比
基準価額	16,520円	16,042円	478円
純資産総額(百万円)	30,596	30,054	541

### ■騰落率

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	2.98%	3.79%	8.47%	17.65%	18.00%	65.20%
参考指数	3.00%	3.78%	8.55%	18.06%	18.84%	71.64%
差	Δ0.02%	0.01%	Δ0.08%	Δ0.42%	Δ0.84%	Δ6.44%

- ※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。また、ファンドの騰落率と実際の投資者利回りは異なります。

### ■資産構成

金融派生商品を使用する場合、短期金融資産の投資比率が高くなる場合があります。

	基本資産配分比率	ファンドの資産構成
日本株式	20.00%	20.26%
日本債券	30.00%	29.49%
外国株式	20.00%	20.74%
外国債券(為替ヘッジあり)	15.00%	14.92%
外国債券(為替ヘッジなし)	15.00%	14.90%
短期金融資産	0.00%	Δ0.31%
合計	100.00%	100.00%

- ※ ファンドの資産構成は、純資産総額に対する比率です。
- ※ 計理処理の仕組み上、直近の追加設定分が反映されないことなどにより「短期金融資産」の値がマイナスで表示されることがあります。
- ※ REITの組入れがある場合、REITは株式に含めて表示しています。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

# 変額個人年金保険 (06)

## 特別勘定の現況 (2020年度)

- 投資信託の運用状況は、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

### 4資産バランス20VA<適格機関投資家限定>の運用状況

#### 【運用方針】

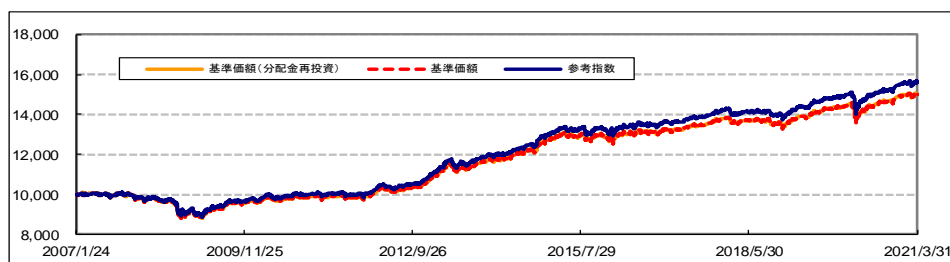
当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行い、実質的に国内外の株式および公社債等に投資を行います。当ファンドが主要投資対象とする各マザーファンドは、それぞれ以下のベンチマーク(運用成果を判断するうえで基準とする指数)と連動する投資成果を目標とする運用を行います。

マザーファンド受益証券の配分に代えて、各マザーファンドを基本配分比率で合成した指数(ただし外国債券の為替ヘッジを行う部分については円ヘッジベース)のリターンと短期金利レートの金利を一定の条件のもとに交換するトータル・リターン・スワップ取引を利用する場合があります。

#### ■各マザーファンドとベンチマーク

利用する投資信託名	基本資産配分比率	マザーファンド受益証券	委託会社	ベンチマーク
4資産バランス20VA <適格機関投資家限定>	日本株式	10.0%	ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社	TOPIX(東証株価指数配当込み)
	日本債券	40.0%		NOMURA-BPI総合指数
	外国株式	10.0%		MSCIコクサイ・インデックス(円ベース)
	外国債券(ヘッジあり)	40.0%		FTSE世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース) *「4資産バランス20VA<適格機関投資家限定>」は、外国債券インデックス・マザー・ファンド受益証券の組入れに伴う実質的な組入れ外貨建資産について、原則として為替ヘッジを行いますので、当該部分のベンチマークは「FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)」となります。

#### ■基準価額の推移



- ※ グラフは、4資産バランス20VA<適格機関投資家限定>の設定日(2007年1月24日)を10,000として指数化しています。
- ※ 基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬(純資産総額に対し、年率0.165%(税抜0.15%))控除後の値です。
- ※ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- ※ 参考指数は、TOPIX(東証株価指数配当込み)10%、NOMURA-BPI総合指数40%、MSCIコクサイ・インデックス(円ベース)10%、およびFTSE世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)40%で組み合わせた合成指数です。

#### ■概況

	当月末	前月末	前月末比
基準価額	15,015円	14,805円	210円
純資産総額(百万円)	5,028	5,050	△23

#### ■騰落率

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	1.42%	0.39%	2.51%	6.88%	10.17%	50.17%
参考指数	1.46%	0.46%	2.69%	7.41%	11.14%	56.21%
差	△0.04%	△0.07%	△0.18%	△0.53%	△0.97%	△6.04%

- ※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。
- また、ファンドの騰落率と実際の投資者利回りとは異なります。

#### ■資産構成

金融派生商品を使用する場合、短期金融資産の投資比率が高くなる場合があります。

	基本資産配分比率	ファンドの資産構成
日本株式	10.00%	10.04%
日本債券	40.00%	40.09%
外国株式	10.00%	10.23%
外国債券(為替ヘッジあり)	40.00%	40.54%
短期金融資産	0.00%	△0.90%
合計	100.00%	100.00%

- ※ ファンドの資産構成は、純資産総額に対する比率です。
- ※ 計理処理の仕組み上、直近の追加設定分が反映されないことなどにより「短期金融資産」の値がマイナスで表示されることがあります。
- ※ REITの組入れがある場合、REITは株式に含めて表示しています。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

# 変額個人年金保険 (06) の投資リスク及び諸費用について

## 【投資リスクについて】

この保険は積立金額および年金額等が特別勘定資産の運用実績に応じて変動(増減)するしくみの変額個人年金保険です。特別勘定資産の運用は、投資信託を利用して国内外の株式・公社債等で行なっており、株式および公社債の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあります。特別勘定資産の運用実績が積立金額に直接反映されますので、運用実績によっては、ご契約を解約した場合の払い戻し金額等が一時払保険料等を下回る場合があります。

## 【諸費用について】

この商品にかかる費用の合計額は、下記の各費用の合計額となります。

### 〈ご契約時〉

項目	費用	ご負担いただく時期
契約初期費	ご契約の締結等に必要な費用 一時払保険料に対して <b>5.0%</b>	特別勘定に繰り入れる際に、 一時払保険料から控除します。

### 〈積立期間中および年金支払期間中〉

項目	費用	ご負担いただく時期
保険契約関係費	既払年金累計金額と 死亡一時金額の合計金額の最低保証、 死亡給付金額の最低保証、 災害死亡給付金額のお支払い、 ならびに、ご契約の維持等に必要な費用	積立金額に対して 左記割合(率)を乗じた 金額の1/365を、毎日、 特別勘定の積立金額から 控除します。
運用関係費	投資信託の信託報酬等、 特別勘定の運用に必要な費用	特別勘定にて利用する 投資信託における純資産総額 に対して左記割合(率)を乗じた 金額の1/365を、毎日、 投資信託の純資産総額から 控除します。

※1 運用関係費は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。

信託報酬の他、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料及び消費税等の税金等の諸費用がかかりますが、これらの諸費用は運用資産額や取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。また、特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。

したがって、お客さまはこれらの諸費用を間接的に負担することとなります。

これらの運用関係費は、特別勘定の廃止もしくは統合・運用協力会社の変更・運用資産額の変動等の理由により、将来変更される可能性があります。

### 〈一般勘定で運用する年金の支払期間中〉

「年金払特約(06)」により年金をお受け取りいただく場合を含みます。

項目	費用	ご負担いただく時期
年金管理費	年金のお支払いや管理等 に必要な費用 <b>1.0%</b> <sup>※2</sup>	年金支払日に責任準備金 から控除します。

※2 「年金払特約(06)」によりお受け取りいただく場合は、記載の費用は上限です。年金管理費は、将来変更される可能性があります。

## 【その他の留意事項について】

### ■受取総額保証金額(終身型)

受取総額保証金額の最低保証は、年金を特別勘定終身年金でお受け取りいただく場合に限られます。特別勘定終身年金以外の方法でお受け取りいただく場合や、積立期間中にご契約を解約される場合、もしくは年金受取期間中に積立金額を一括でお受け取りいただく場合には、お受け取りになる金額が一時払保険料を下回る場合があります。